

見学会報告  
ファーブル昆虫館「虫の詩人の館」の見学  
平井克男



奥本先生と記念撮影をする参加者

3月3日(日)ファーブル昆虫館「虫の詩人の館」を見学してきました。館長は昨年4月の自然博ネットの総会時に講演いただいた奥本大三郎先生です。東京都文京区千駄木にある昆虫館に伺い、奥本先生から昆虫に関する話、ファーブルについてのお話などをお聞きし、館内をご案内いただきました。館は地下1階から地上4階まであり、地下1階には南フランス、サンレオンのファーブルの生家が再現され、ベッド、机、タンス、ランプなどがあって、少年時代のファーブルの暮らしがよくわかります。1階は受付、展示室でファーブル昆虫記や昆虫に関する様々な展示がされています。2階は標本収蔵室で世界の昆虫が地域別にドイツ型標本箱に収められています。その一部に北杜夫コレクションや、やくみつるコレクションなどの名前もありました。

奥本先生によるファーブル昆虫記も最終段階に入り、あと5年ほどで全巻翻訳が完成するとのことでした。先生の昆虫記の特徴は注釈が丁寧で、わかりやすく、昆虫学者“虫屋の眼”で検証されて書かれていて、これまでの翻訳者と別次元のスタンスに立って訳されていることを強く感じます。奥本先生からは「現在取り掛かっている箇所ではファーブルはオオモンシロチョウの幼虫が卵殻を食べてしまうのを観察しているが、他の蝶はどうですか」などと我々の同行



ファーブル昆虫館「虫の詩人の館」展示室



奥本先生と話をする高橋先生

の高橋真弓先生に尋ねられたり、「以前の翻訳ではオオモンシロチョウがモンシロチョウとなっていますが、これではまずいですね」などと話され、更に「ファーブル自身の観察で彼が疑問に思ったりしていることで現在も答えが見いだされていないものが、まだたくさんありますね」等々有意義なお話もお伺いできました。先生の軽妙酒脱のお話をお聞きしていると時間の過ぎるのも忘れるほどでした。

今夏は東京タワーで世界の昆虫展の企画があり、先生はボランティアの皆さんとそれに取組んでいらっしゃる、お忙しい毎日のようでした。なお、ファーブルのお話などは自然史しずおか37号3P(総会特別講)の奥本先生の講演の項をご参照願います。